

# INFORMATION NOW

インフォメーション・ナウ



消費者2千803名と市内962の商店主を対象に意向調査を実施！

## 「ノーレジ袋デー」に関するアンケート調査結果

市民や事業者の代表で組織される「狭山市のごみ減量化推進会議」では、ごみの減量と地球資源の節約のために、「買い物袋持参運動・マイバッグキャンペーン」を毎年展開しています。この運動をさらに推進するためには、行政、企業、市民それぞれが、一歩踏み出した具体的な行動をとることが必要です。そこで、会議では、「ノーレジ袋デー」(1年に1日間、市内の小売店は一斉にレジ袋を提供しない、市民は買い物袋を持参する)という日の設定に向けて活動をしています。今回は、「ノーレジ袋デー」実現のための意向調査の結果を報告します。

### 消費者の意見

8割以上が賛成で、反対は若い男性に多いようです。「ポイントカードなど特典をつける」、「全市的にレジ袋を出さない」、「過剰包装を減らし、資源物の分別回収を増やす」、「買い物袋持参運動の活発化」など、積極的な意見が寄せられました。

**Q** あなたは買い物袋を持参していますか？

約半数のかたが、普段は買い物袋を持参していません。年齢が下がるほどその傾向が強く、理由は「レジ袋をくれるから」が約半数で、「忘れるから」と「レジ袋が便利で欲しいから」がほぼ4分の1ずつです。

**Q** レジ袋の使用方法は？  
(複数回答)

9割以上のかたがごみ袋として使用しています。ほかには、学校で使う、買い物・おすそ分け・犬の散歩

のときの薰入れなどに使うといった回答がありました。

**Q** レジ袋を減らすにはどうしたらいいでしょうか？

半数強のかたが「買い物袋持参運動を広げる」とし、「レジ袋の有料化」も約3分の1のかたが回答しています。逆に約1割のかたが「減らす必要はない」と回答しています。

### 店主の意見

「協力したいが約9割でしたが、業種によって協力できない部分もあるようです。多くのお店は「レジ袋の提供は当然のサービスと考える消費者がいるがぎり、店から行動を起こすのは難しい」とし、市からの周知徹底を望む声が寄せられました。

**Q** 「ノーレジ袋デー」にどのように対応しますか？

「客への声かけ」、「買い物袋を持参

したかたには袋を提供しない」が約8割でした。しかし、レジ袋の有料提供については、「サービス低下と思われる」などの理由で6%という低い数字にとどまりました。また、ポスターの掲示やチラシ配付などには、約85%のお店から協力するとの回答がありました。

### 実施に向けて

し、有料にしても問題は起きていないという報告もありました。

**Q** 「ノーレジ袋デー」に協力できない理由は？

「袋に入れないと持って帰れない品物を扱っている」という回答が約7割、ほかに「万引き被害が増える」、「客層によっては協力要請が難しい」などの理由があげられました。

**Q** レジ袋の節約に対するお店の考え方は？

買い物袋を持参したかたへの特典を実施したり、日ごろから声をかけてレジ袋を提供しないようにしているお店も多く見られます。あるクリーニング店では、サービス袋を撤廃

調査結果を受けて、狭山市のごみ減量化推進会議では、全市一斉に消費者は買い物袋を持っていき、お店はレジ袋を出さない日「ノーレジ袋デー」を、年に1回実施していくことを決めました。1回目は平成13年11月2日(リサイクル都市宣言日)とします。この運動を徹底するためには、市民、事業者の皆さんの協力がが必要です。今後はさまざまなPR活動とともに、ノーレジ袋デーに関する意見なども集めていきますので、ご協力をお願いします。

問い合わせ

ごみ減量・資源リサイクル推進チーム  
市内狭山市のごみ減量化推進会議事務局  
へ内線3631